

「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」(第4回) 検証訓練

令和元年7月12日に常呂町多目的研修センターにおいて、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」(第4回) 検証訓練を開催しました。タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。今回の検証訓練は、これまでの検討会の結果を踏まえて作成した「常呂川下流地区(常呂自治区)水害タイムライン試行版」詳細表に基づき、これまでに検討してきた防災行動の内容や防災対応の流れを参加全機関で認識共有するために実施しました。

- 開催日時 令和元年7月12日(金) 9:00 ~ 12:00
- 実施場所 北見市常呂町多目的研修センター 1階大ホール(北見市常呂町土佐2番地1)
- 参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方気象台、北海道オホーツク総合振興局、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会、北見市民生委員児童委員協議会、JA北海道厚生連常呂厚生病院、北見市商工会、北海道電力株式会社、東日本電信電話株式会社、常呂町建設業協会 計 13機関 61名

1. 開会

座長である東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 松尾一郎客員教授より、「第4回検討会にあたり、今まで3回の議論を重ねて来た成果を実際に使ってみて修正する。タイムラインは作成して終わりではなく、試行し見直しを続けるループ(PDCA)が重要である。これから使い続けることを今日を始めとして覚悟を持って使って欲しい。今日は訓練だが、ぜひ、早い段階で一度、実際の雨か台風でタイムラインを立ち上げて使ってみて欲しい。そして地域に根付いたタイムラインを作っていたらと思います。今日は皆さん頑張らしましょう。」と、お話しされ、座長の進行により検証訓練が始まりました。



松尾 一郎 座長

2. 検証訓練

訓練は常呂自治区での水害発生を想定したシナリオを用いて実施しました。訓練では、訓練進行役から付与される気象情報や河川情報の状況に応じて「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」に記載されている項目を参照しながら、各機関の防災行動の手順・流れを時間軸に沿って確認したほか、他機関との情報伝達のタイミングや流れ、伝達内容等を確認しました。確認された実施時刻や対応内容は情報連絡票と検証チェックシートに整理しました。

各機関ごとに記入した検証チェックシートと情報連絡票は、事務局で取りまとめを行い、常呂川下流地区水害タイムライン試行版の今後の改善点や防災対応上の改善点を抽出、参加機関で共有し、必要に応じて試行版の修正・改善を行っていく予定です。



タイムラインステージ移行協議



北見市によるステージ移行伝達



情報連絡票による伝達



検証訓練の様子

3. 全体講評

本日の検証訓練について、アドバイザー、気象台長、開発建設部次長よりそれぞれ講評を頂きました。

<渡邊 康玄アドバイザー 北見工業大学 副学長（研究、国際、地域連携担当）>

いろいろな面で今後、これを更に改良する考えを各機関で持ったと思うが、意見を機関内でとどめることなく双方に関係を築き、必要な情報や意見を交換して欲しい。また機関内でも今回のような取り組みをすればより良い防災対策になると思う。

顔と顔を突き合わせる関係の重要性が理解されたと思うので、今後も是非続けて行って欲しい。



渡邊 康玄 アドバイザー

<根本 昌宏アドバイザー 日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター長>

多機関の皆さんが試行版を実際に動かされるというご苦労に敬意を表する。このような流れの中で多機関の方が同じ「命を守る」ということをベースにすることが始まった日であるという事が私自身北見市民として嬉しく思う。

今回の反省、課題も見えてきていると思うが、多機関の方が何回も回してより良いものに膨らませて欲しい。タイムラインは住民のための物だが、カーリングの町である常呂地区では、観光で来ている方にどのようにタイムラインを生かして行くか、様々な方の命を救う仕組みとしてタイムラインが活かされる事を願っている。



根本 昌宏 アドバイザー

<菊地 範 網走地方気象台長>

情報を発信する側として情報がどのように伝わったのか、また、伝わっていないのか見ていたが、気象台の情報がわかりにくい。

警報予告の付いた注意報とそうでない注意報の区別がつかない。雨がそれほど降っていない中でどんな情報を伝えるか等、今後検討してより良いものにするのに気象台もこれから協力して行きたい。



菊地 範 台長

<高橋 一浩 網走開発建設部次長>

第1回検討会からオブザーバーとして外から見て来たが、検討会をここまです積み重ねてきた成果が表れていたと思う。今回までは本当に顔の見える関係で訓練を重ねてきたが本番は顔が見えない。

今日のこの関係がタイムラインで繋がって、信頼できるものとして自分の組織に戻った時に今日参加の皆さんが、コアになって地域のために、常呂地区のためのタイムラインを動かせるように、私も網走開発建設部の防災を担当する者の一人として頑張りたい。



高橋 一浩 次長



4. 閉会

司会から、午後から試行版完成式と完成式フォーラムを開催することと、北見市の発信する情報を全体で共有するために『メール@きたみ』への登録のお願いが伝えられ、第4回検討会は閉会となりました。